

キャリア教育プログラムの効果が明らかに

～「高校生から見たキャリア教育実態調査」のご報告～

13歳のハローワーク公式サイト*1 企画の“しごと観育成”研究会*2 では、2017年2月から7月にかけて、全国の高等学校18校、4679名の高校生を対象に調査を実施し、研究を行ってまいりました。

調査結果のポイントは以下の通りです。

A：キャリア教育プログラム*3は、数多く受ければ効果的か？

➡ プログラムを受けた個数が増えても「しごと観」は変化しない

B：キャリア教育プログラムへの取り組み実態とその効果

➡ 「職業体験」に取り組む際に、準備やまとめをしているのは3人に1人量より質、取り組み姿勢によって効果に差

C：キャリア教育プログラムから何を得ればよいのか

➡ キャリア教育の中で得られた「体験・経験」が「しごと観」を醸成する

D：ふだんの授業や課外活動の中でも「しごと観」は醸成される

➡ クラブ活動に打ち込むと何がよいのか、その効果が明らかに

E：キャリア教育における、ふだんの授業や課外活動の意義

➡ キャリア教育と、ふだんの授業や課外活動における連携の可能性

--- 本件に関するお問合わせ先 ---

■共同調査データについて

株式会社 応用社会心理学研究所（アспект）

〒540-0031
大阪市中央区北浜東1-8 北浜東森田ビル5F

TEL: 06-6941-2171
E-mail: 13hw@aspect-net.co.jp

担当: 田中賢治

<http://www.aspect-net.co.jp/>

■13歳のハローワーク公式サイトについて ■“しごと観育成”研究会について

13歳のハローワーク公式サイト
株式会社 トップアスリート

〒150-0021
東京都渋谷区恵比寿西2-3-2 NSビル3F

TEL: 03-6416-4547
E-mail: info@13hw.com

担当: 松尾

<http://www.topathlete.net/>

*1 13歳のハローワーク公式サイトについて

13歳のハローワーク：作家村上龍が書きおろした子どものための仕事百科事典で、150万部発行、全国8000校で採用されています。

「13歳のハローワーク公式サイト」はこの本の公式サイト。村上龍氏の書き下ろしのコンテンツがすべて読めるほか、子どもの質問に対して仕事についている大人が回答する、Q&Aコーナーが充実した、月間850万PVの人気サイト。（<https://www.13hw.com/>）

*2 “しごと観育成”研究会について

“しごと観育成”研究会は、13歳のハローワーク公式サイトを主体に、その運営会社である株式会社トップアスリートと、株式会社応用社会心理学研究所（アспект）が高等教育機関に呼びかけ、研究会の趣旨に賛同していただいた大学の研究者や専門学校と共に2006年10月に立ち上がりました。若者の“しごと観”の現状や、それらを育成あるいは影響する要因をつきとめるための調査・研究活動を行っています。

過去には、高校生の“しごと観”と“進路選択”をテーマに調査を実施し、キャリア教育には勉強へのやる気アップの効果があることを明らかにしました。

<研究会の目的>

1. しごと観育成のメカニズムの研究・解明
2. 実績と熱意のある教育機関・就職支援機関等の連携による実践的活動の実施および実績作り
3. 上記活動を通じた社会への発信・提言

*3 キャリア教育プログラムについて

下記のような、高校の教育現場で実際に行われているプログラムを指します。

- 適性／適職診断
- ライフプランの作成
- 職業調べ
- 職場体験／インターンシップ
- 職場見学／ジョブシャドウ
- 職業人講話
- 大学や短大、専門学校などとの連携授業

■■ 調査概要 ■■

<調査方法>	各学校内でアンケート用紙を配布・回収
<調査時期>	2017年2月～7月
<調査対象>	全国の高等学校18校の1年生～3年生（公立：11校／私立：7校）
<有効回答数／分析対象者数>	有効回答数：4679／分析対象者数：4521

以下、詳しいレポートをご参照ください。

■目次

A：キャリア教育プログラムは、数多く受ければ効果的か？

A-1：プログラムを受けた個数が増えても「しごと観」は変化しない P.4

B：高校生のキャリア教育プログラムへの取り組み実態とその効果

B-1：取り組み姿勢にはばらつきが大きい P.5

B-2：量より質，取り組み姿勢によって効果に差 P.6

C：キャリア教育プログラムから何を得ればよいのか？

C-1：キャリア教育の中でどのような「体験・経験」をしているのか P.7

C-2：キャリア教育の中で得られた「体験・経験」が「しごと観」を醸成する P.8

D：ふだんの授業や課外活動の中でも「しごと観」は醸成される

D-1：ふだんの授業や課外活動の中でもキャリア発達の「体験・経験」が得られる P.9

D-2：クラブ活動に打ち込むと何がよいのか，その効果が明らかに P.10

E：キャリア教育における，ふだんの授業や課外活動の意義

E-1：キャリア教育とふだんの授業や課外活動における連携の可能性 P.12

■ A：キャリア教育プログラムは、数多く受ければ効果的か？

A-1：プログラムを受けた個数が増えても「しごと観」は変化しない

キャリア教育の大きな目的として、「自身の将来に対するイメージや、働くことに対する態度」を高校生に形成してもらう、というものがああります。

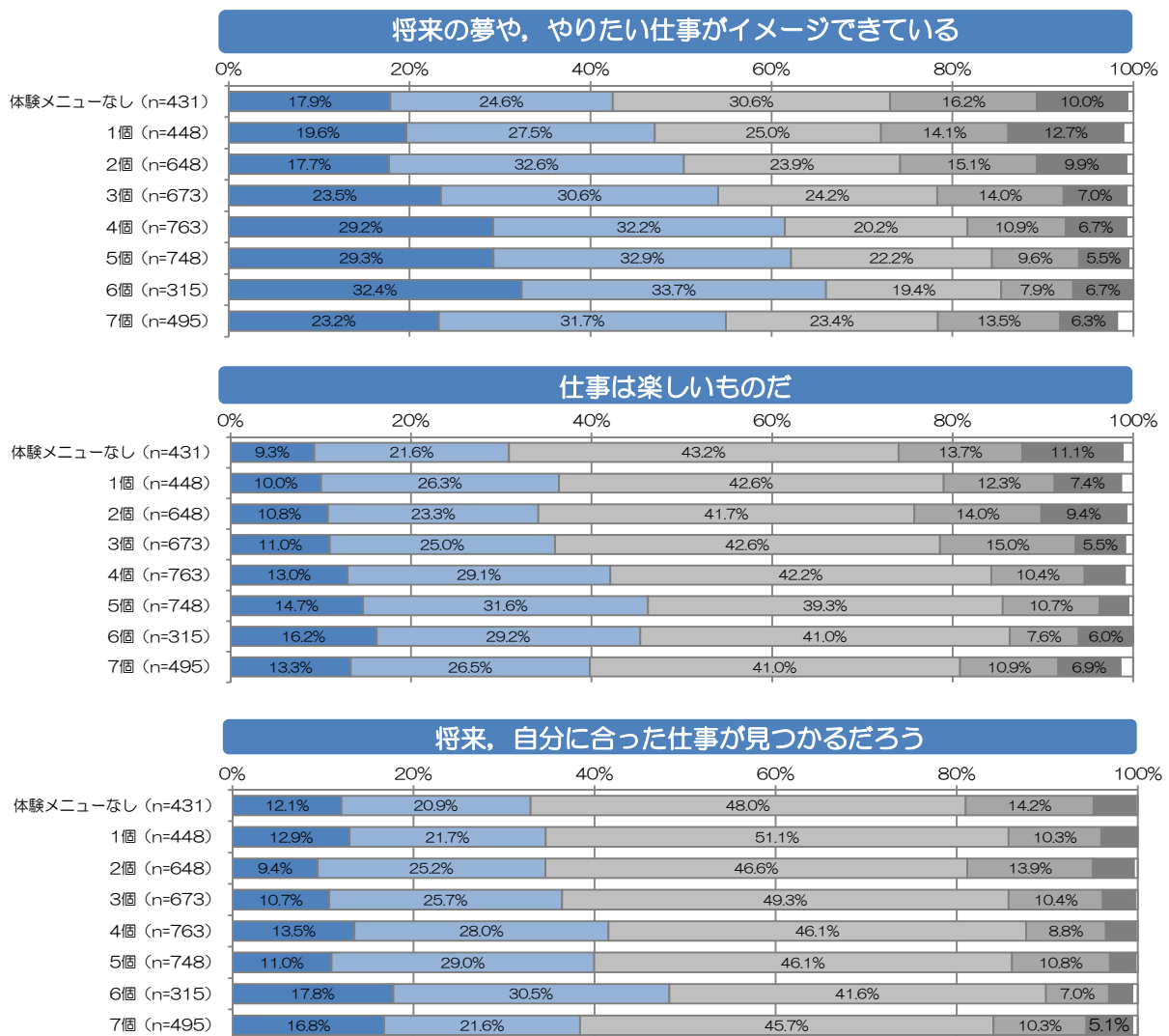
こうした「しごと観」を培ってもらうために、インターンシップや職業人講話など、キャリア教育の多様なプログラムを展開している高校もあることと思います。では、様々なプログラムを数多く受けている高校生ほど、こうした「しごと観」は培われているのでしょうか。

下の図は、各種キャリア教育プログラムのうち、「受けたことがある」と答えたものの個数と、「しごと観」に関する項目の一部との関係を表したものです。

「将来の夢や、やりたい仕事がイメージできている」については受けたことのあるプログラムの個数が増えるにしたがって「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の割合も増えていく傾向が見られます。しかし、その一方で「仕事は楽しいものだ」や「将来、自分に合った仕事が見つかるだろう」については、プログラムの個数が増えても肯定的な回答をする人の割合が増えるわけではないことが確認できます。

■ 「体験メニューの数」と「しごと観」の関係

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明



■ B：高校生のキャリア教育プログラムへの取り組み実態とその効果

B-1：取り組み姿勢にはばらつきが大きい

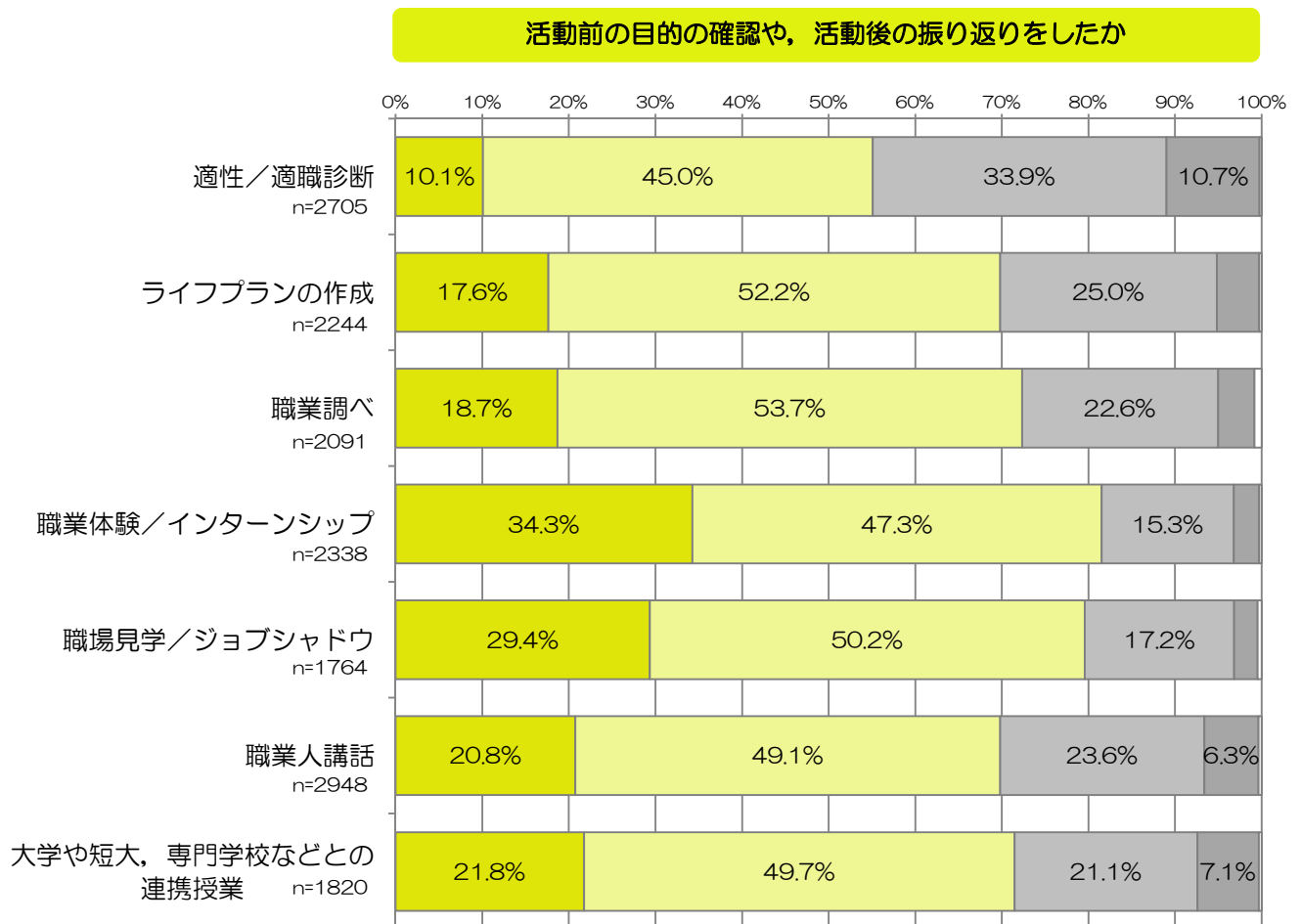
単に多くのプログラムを受ける、という「量」では必ずしも効果が出ないとすると、効果的なキャリア教育を実現するためには「質」の面にも注意を払わなければなりません。すなわち、「キャリア教育に対して高校生にどんな姿勢で取り組ませるか、その中でどんな体験をしてもらうか」が重要になります。

「高校生から見たキャリア教育実態調査」では、キャリア教育の各種プログラムを「受けたことがある」と回答した高校生に対し、それぞれどのような姿勢で取り組んだかを測定しています。

その姿勢のうち、「活動の準備やまとめをしたか」という項目についての結果が、以下のグラフになります。プログラムによる多少の差はありますが、積極的に取り組んだ人もいれば、そうでない人もいます。つまり、高校生のキャリア教育への取り組み姿勢にはばらつきがあるということです。

■ キャリア教育プログラムへの取り組み姿勢

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明



集計対象者：各プログラムに対して、「受けたことがある」と回答した人

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

■ B：高校生のキャリア教育プログラムへの取り組み実態とその効果

B-2：量より質，取り組み姿勢によって効果に差

続いて，そうした取り組み姿勢によって「しごと観」は変化するのかを検証します。

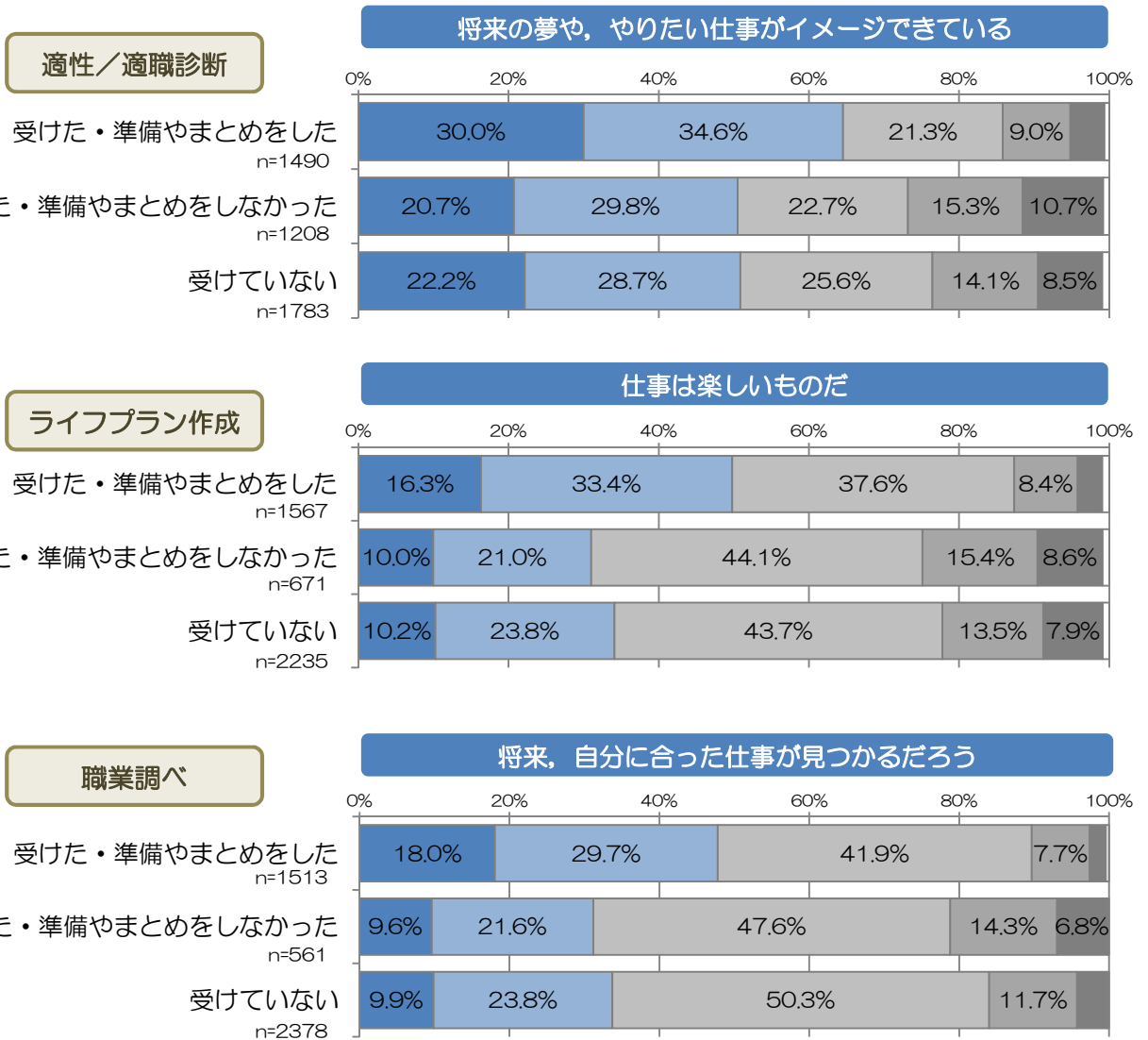
以下のグラフは，3つのキャリア教育プログラムについて，高校生を3群（「受けていない」・「受けたことがあり，活動の準備やまとめをしていない」・「受けたことがあり，活動の準備やまとめをした」）に分けて，「しごと観」を比較したものです。

どのキャリア教育プログラムでも，「受けていない」と「受けた・準備やまとめをしなかった」を比較しても大きな差が見られません。

それに対して，「受けたことがあり，活動の準備やまとめをした」と答えた高校生は，明らかに水準が高くなっています。つまり，キャリア教育プログラムに対する取り組み姿勢が積極的かどうかによって，「しごと観」が変化しているのです。

■ 取り組み姿勢の違いと，しごと観の変化

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明



集計対象者：全体（n=4521）

※但し，各キャリア教育プログラムへの取り組み姿勢に対する回答が不明なものは除く。

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

■C：キャリア教育プログラムから何を得ればよいのか

C-1：キャリア教育の中でどのような「体験・経験」をしているのか

取り組み姿勢だけでなく、「キャリア教育の中でどんな体験・経験ができたか」もまた、キャリア教育の「質」の一側面です。

高校生は、キャリア教育に取り組む中で、後のキャリア発達に影響を与えるような様々な経験をし、「しごと観」を変化させていく可能性があります。

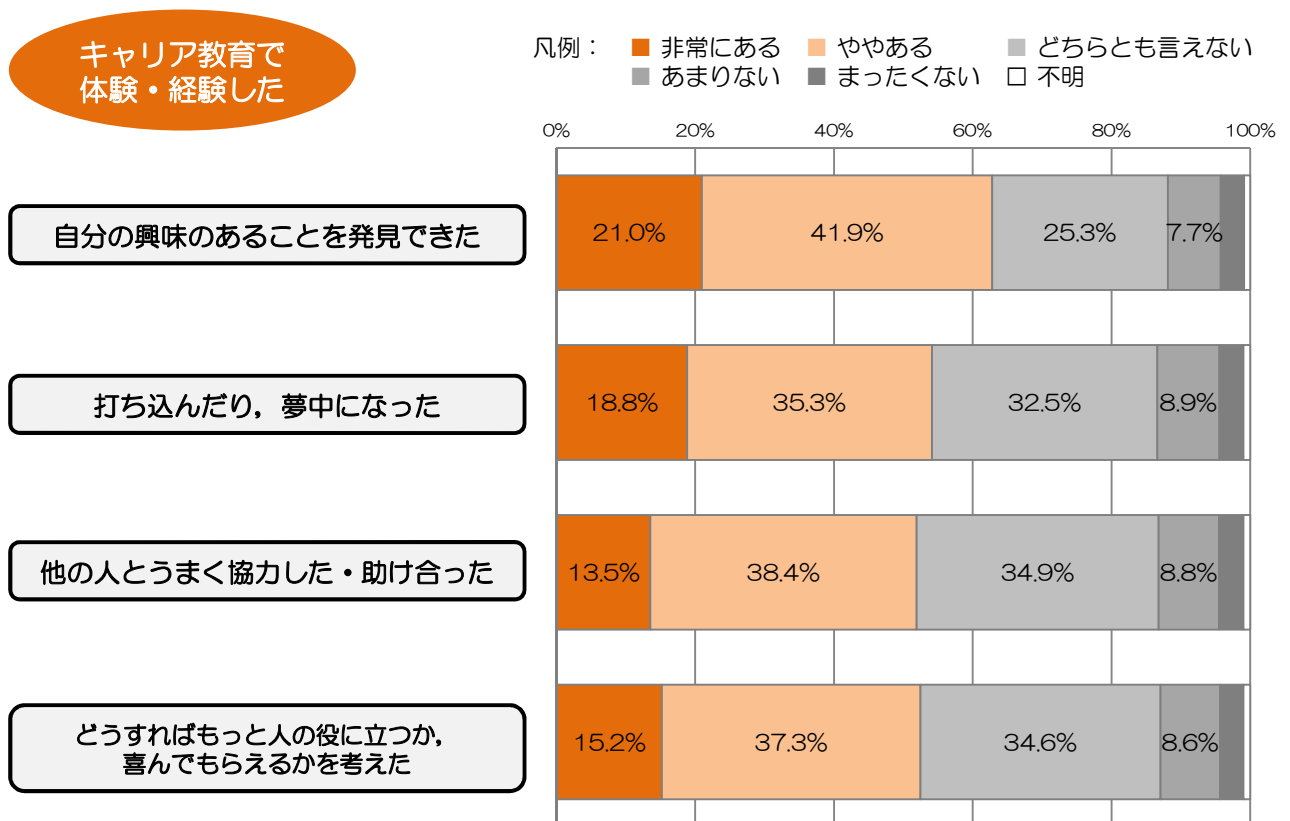
例えば、自分が興味のあること・得意なことを新たに発見すれば、将来の方向性が定まるきっかけとなりますし、周りの人と工夫して連携をした、という経験をすれば、働く際のイメージがより具体的になるでしょう。

高校生は、キャリア教育の中でこうした体験・経験をどの程度しているのでしょうか。

下のグラフは、上述のキャリア教育の各種プログラムのうち1つ以上を受けたことがある回答者を対象に、どれだけの人が「後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験」をしているかを表したものです。

体験・経験をしたことが「非常にある」「ややある」と回答した人の割合はいずれも5割強～6割に留まり、キャリア教育を受けている高校生の半分ほどがこうした体験・経験をしていないことが示唆されます。

■キャリア教育の中で得られている体験・経験の実態



集計対象者：各種キャリア教育のプログラムのうち、1個以上「受けたことがある」と回答した人 (n=4090)

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

■C：キャリア教育プログラムから何を得ればよいのか

C-2：キャリア教育の中で得られた「体験・経験」が「しごと観」を醸成する

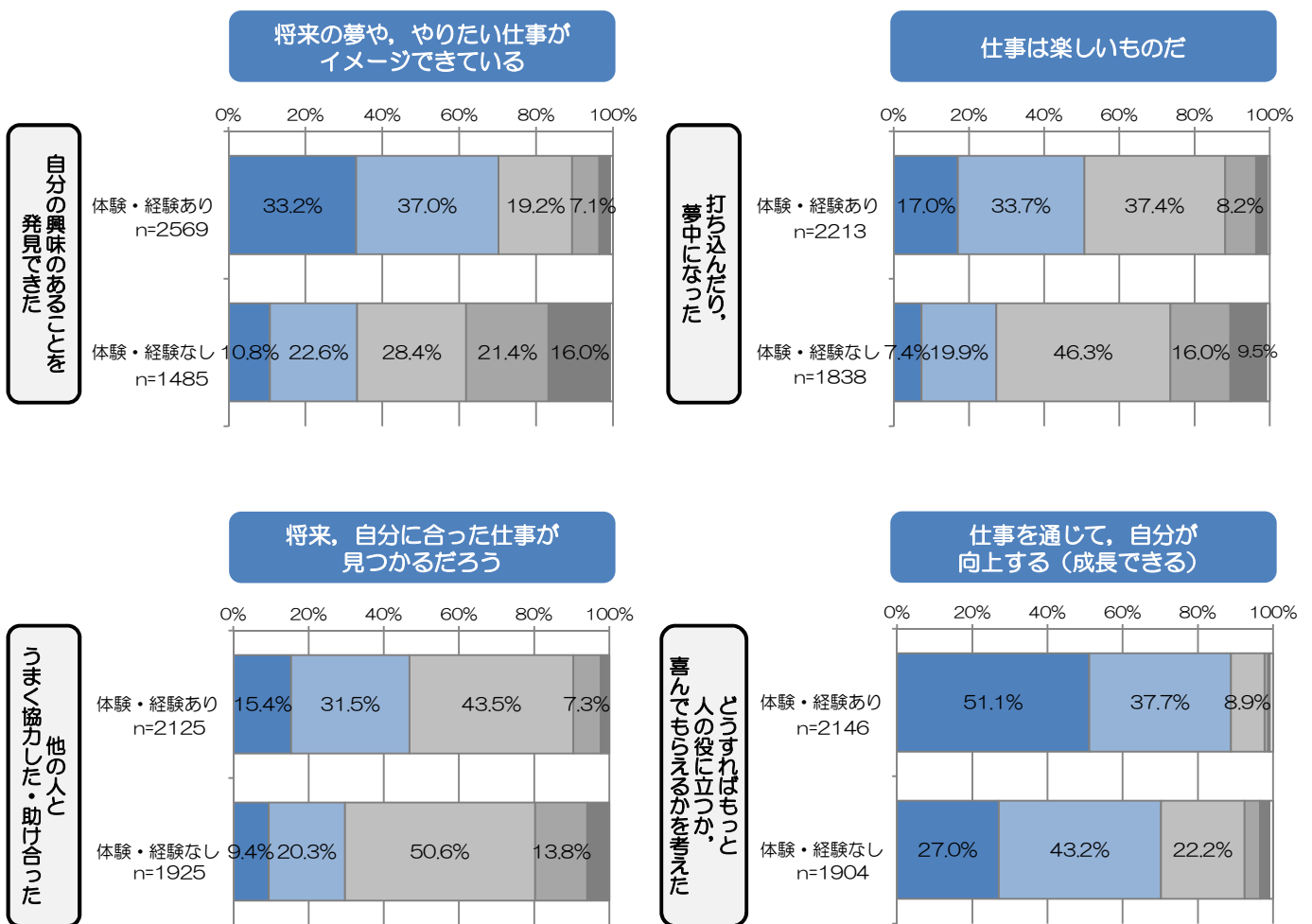
「後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験」の有無によって、「しごと観」は変容するのでしょうか。「体験・経験」の有無と「しごと観」との関係を見てみましょう。

下のグラフからは、こうした体験・経験をしているかどうかで、キャリア教育を受けている高校生の中でも「しごと観」に差が見られることが分かります。

これらの結果からは、キャリア教育の中で高校生の「しごと観」を変容させようとする際には、単にプログラムを受けさせるだけではなく、その中でどんな体験をしてもらいたいかを意識してプログラムを考えることが重要である、ということが示唆されます。

■キャリア教育プログラムで得られている経験・体験と、「しごと観」の関係

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない
■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明



集計対象者：各種キャリア教育のプログラムのうち、1個以上「受けたことがある」と回答した人 (n=4090)

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

■D：ふだんの授業や課外活動の中でも「しごと観」は醸成される

D-1：ふだんの授業や課外活動の中でもキャリア発達の「体験・経験」が得られる

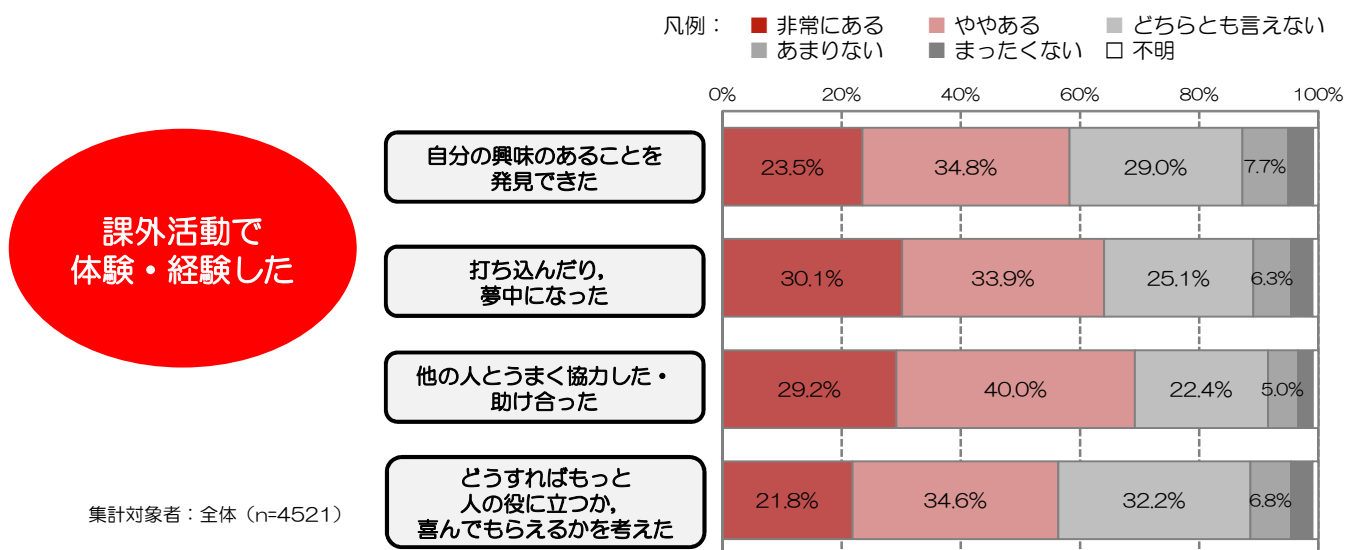
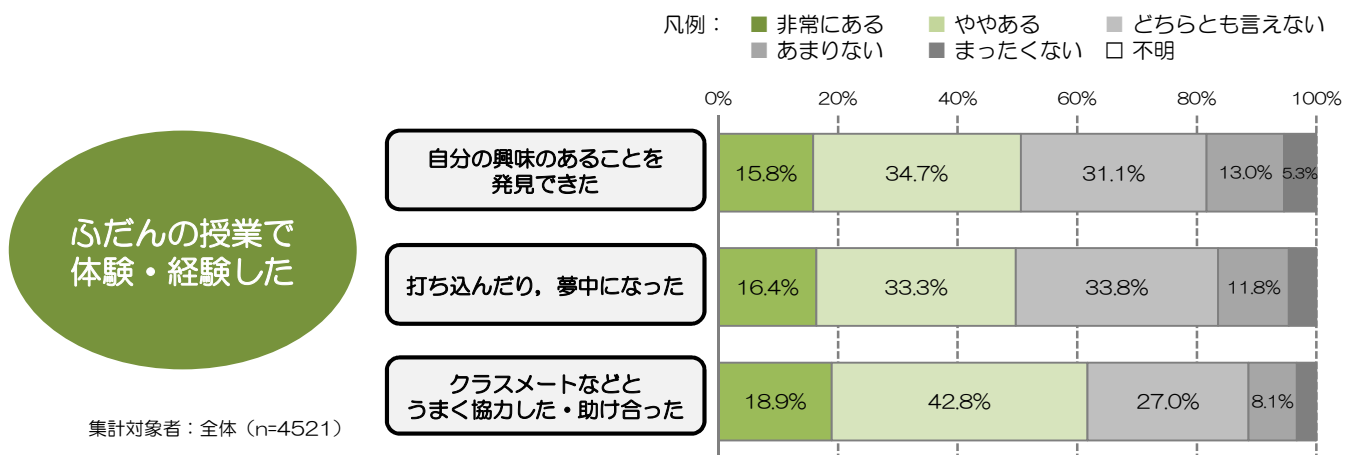
ここまで、単にキャリア教育のプログラムを受けた・受けていないではなく、その中で体験・経験の有無に応じて「しごと観」が変化していることを見てきました。

しかし、ここで注意したいのは、これまで取り上げてきたような体験・経験は、**キャリア教育の中だけでできないものではない**ということです。例えば、ふだんの授業の中でも自分が興味のあること・得意なことを新たに発見することはありますし、部活動や学校行事で他の人のためにどうすれば役に立てるかを考えるような場面もあるでしょう。

「高校生から見たキャリア教育実態調査」（当調査）では、後のキャリア発達に影響を与えられられる体験・経験について、キャリア教育の中だけでなく、「ふだんの授業」や「部活動、学校行事といった課外活動」の中でどれだけしているかについても、項目を設けて測定しています。

これらの項目の回答結果を確認すると、やはり**高校生はキャリア教育以外のふだんの場面においても、後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験を得ている**ことがわかります。

■ふだんの授業や課外活動の中で得られている体験・経験の実態



■D：ふだんの授業や課外活動の中でも「しごと観」は醸成される

D-2：クラブ活動に打ち込むと何がよいのか、その効果が明らかに

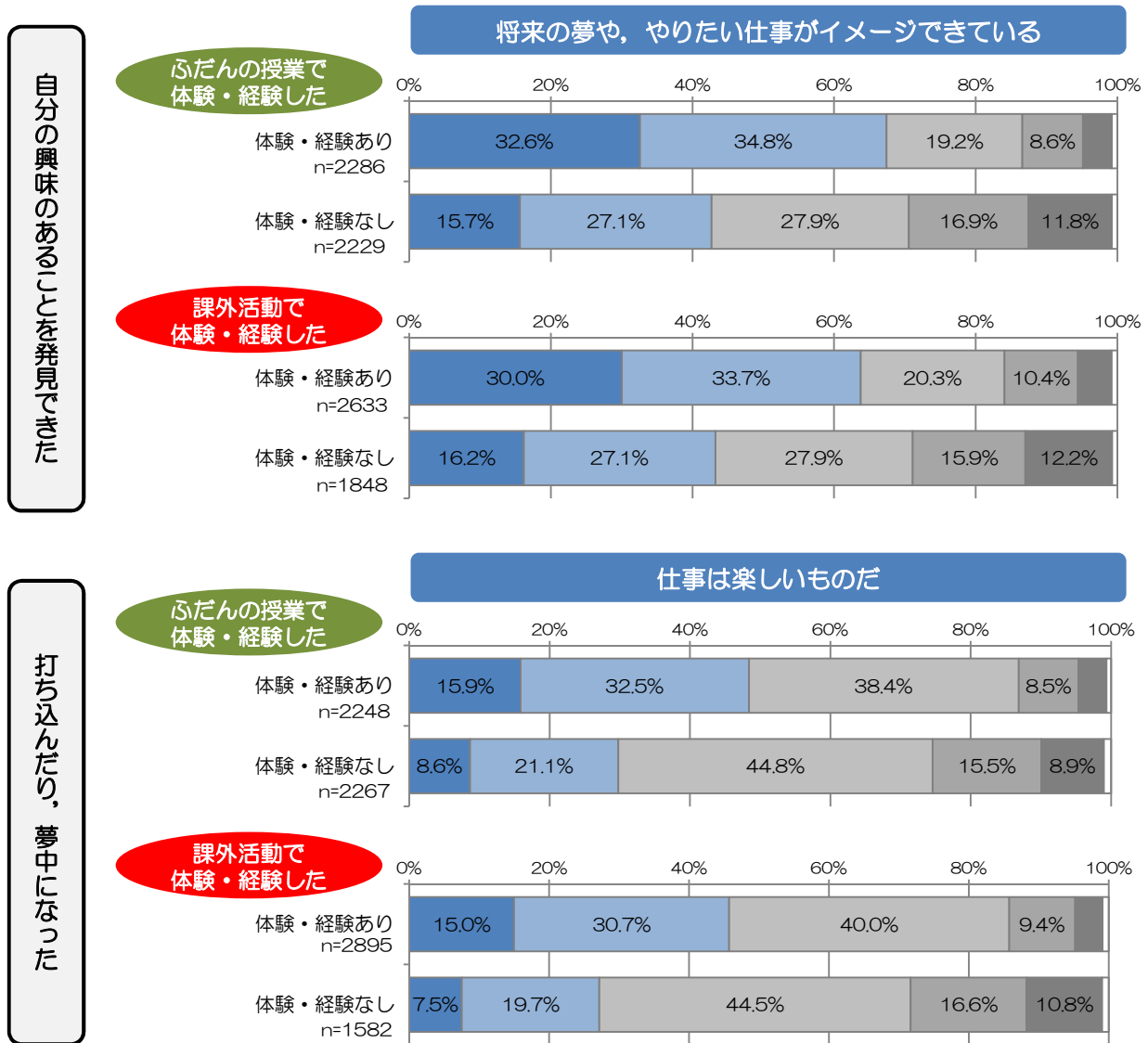
以下のグラフから、授業や課外活動の中で「自分の興味のあることを発見する」、「打ち込んで夢中になる」といった体験・経験をした高校生は、そうでない高校生に比べて将来のイメージがはっきりしていて、仕事に対する姿勢も前向きなものとなっており、「しごと観」が醸成させていることがうかがえます。

課外活動の一環として、クラブ活動に打ち込むことが奨励されていますが、実際に打ち込むことによってどのようなことが得られるのか、これまではっきりとはされていませんでした。今回の調査から、そのうちの一つは、後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験であると言えます。

また、授業や課外活動におけるこうした体験・経験もまた、キャリア教育における体験・経験と同様、高校生の「しごと観」に影響を与えることが、今回の調査から明らかになっています。

■ふだんの授業や課外活動の中で得られている体験・経験と「しごと観」の関係

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明



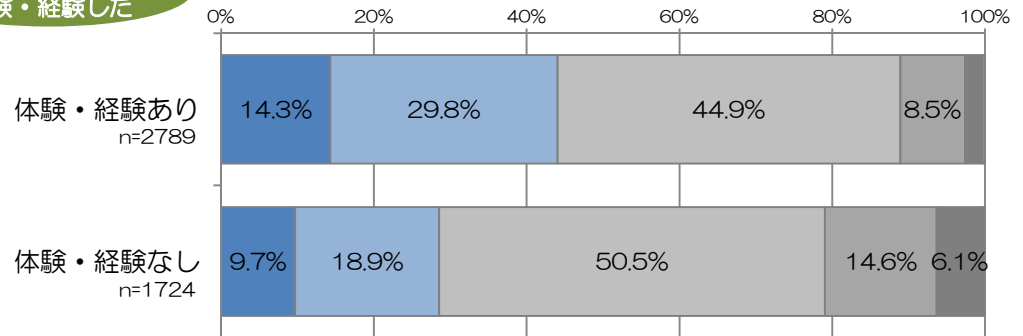
■D：ふだんの授業や課外活動の中でも「しごと観」は醸成される

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない
■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明

将来、自分に合った仕事が見つかるだろう

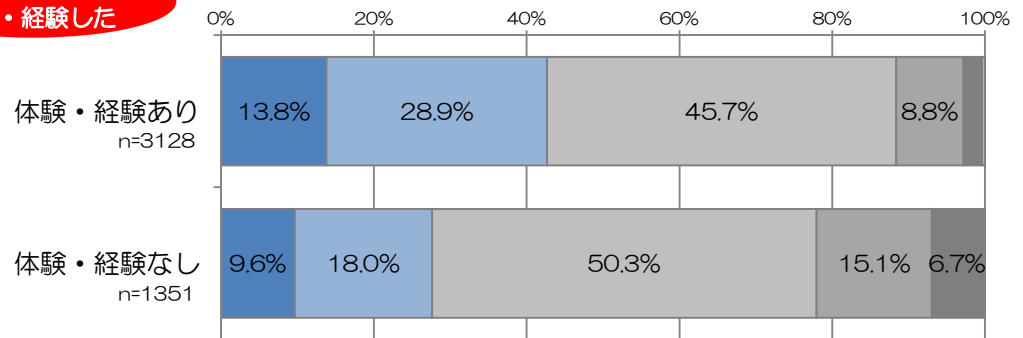
うまく協力した・助け合った
クラスメートなどと

ふだんの授業で
体験・経験した



他の人とうまく協力した・助け合った

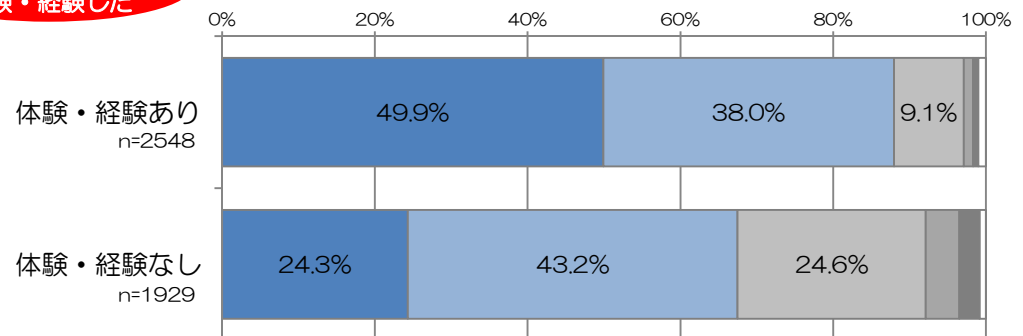
課外活動で
体験・経験した



どうすればもっと人の役に立つか、喜んでもらえるかを考えた

課外活動で
体験・経験した

仕事を通じて、自分が向上する（成長できる）



集計対象者：全体 (n=4521)

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

■ E：キャリア教育における、ふだんの授業や課外活動の意義

E-1：キャリア教育と、ふだんの授業や課外活動における連携の可能性

さらに興味深いのは、高校生の「しごと観」に対するキャリア教育の効果と、授業や課外活動の効果と比較した結果です。

後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験について、回答者を

①「キャリア教育」と「授業や課外活動」の両方で体験・経験あり



②「キャリア教育」でのみ体験・経験あり



③「授業や課外活動」でのみ体験・経験あり



④「キャリア教育」と「授業や課外活動」のどちらでも体験・経験なし

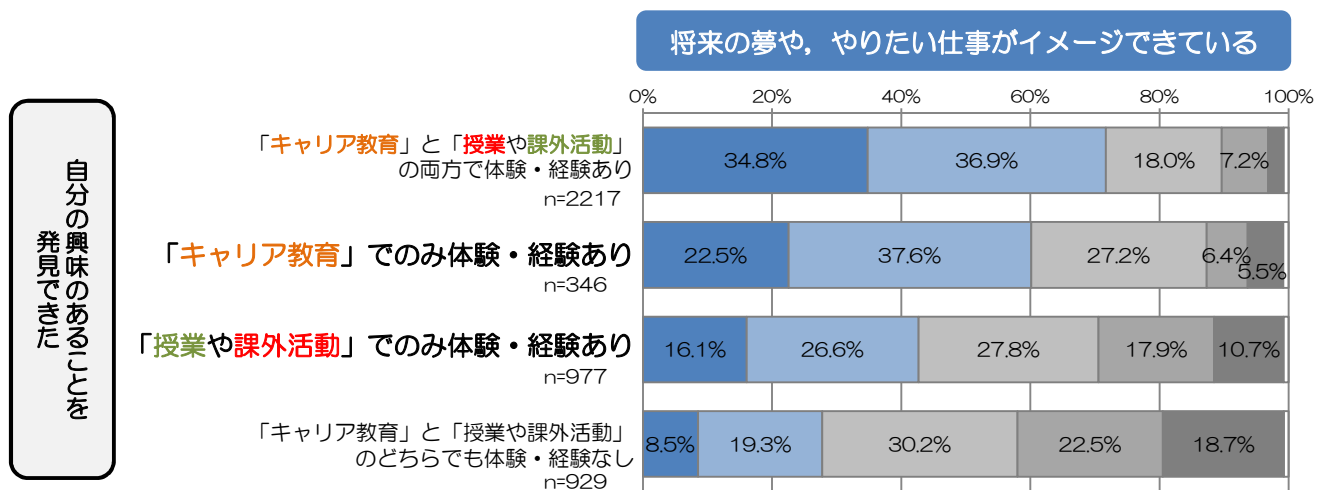


の4グループに分けたうえで「しごと観」を比較すると、④に比べて②が高いのはこれまで見てきた通りですが、キャリア教育の中で体験・経験をしていない③のグループの「しごと観」もまた、④を上回る水準となっており、中には②と同程度の水準となっているものもあります。

さらには、①の効果が最も高いことから、イベント型となりがちなキャリア教育プログラムをふだんの授業や課外活動と連携させることで、さらに高い効果を出す可能性があります。

■各グループで醸成される「しごと観」の差

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明



集計対象者：全体 (n=4521)

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

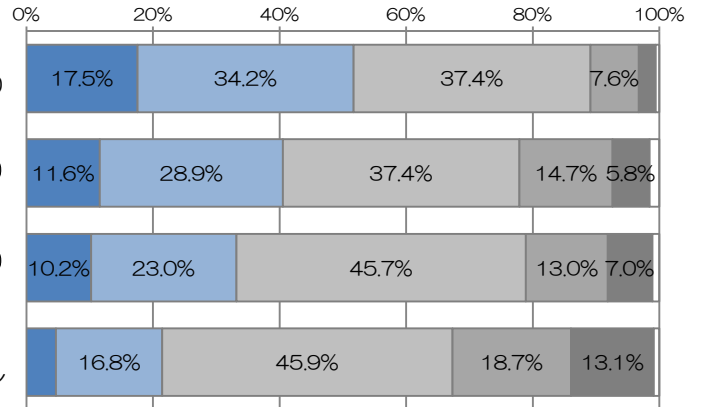
■ E：キャリア教育における、ふだんの授業や課外活動の意義

凡例： ■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらとも言えない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない □ 不明

打ち込んだり、夢中になった

仕事は楽しいものだ

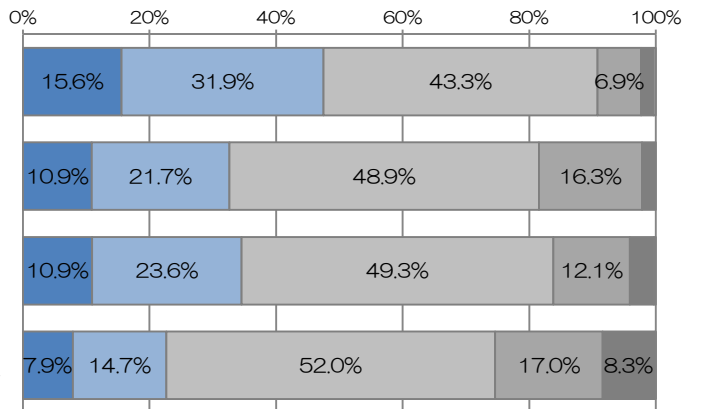
- 「キャリア教育」と「授業や課外活動」の両方で体験・経験あり n=2020
- 「キャリア教育」でのみ体験・経験あり n=190
- 「授業や課外活動」でのみ体験・経験あり n=1266
- 「キャリア教育」と「授業や課外活動」のどちらでも体験・経験なし n=988



他の人とうまく協力した

将来、自分に合った仕事が見つかるだろう

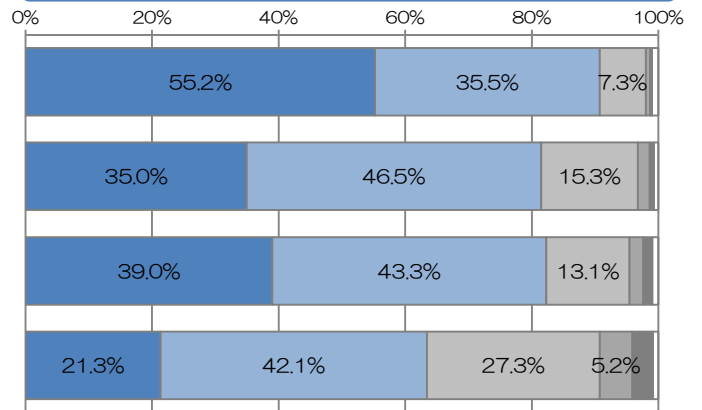
- 「キャリア教育」と「授業や課外活動」の両方で体験・経験あり n=2033
- 「キャリア教育」でのみ体験・経験あり n=92
- 「授業や課外活動」でのみ体験・経験あり n=1509
- 「キャリア教育」と「授業や課外活動」のどちらでも体験・経験なし n=835



どうすればもっと人の役に立つか、喜んでもらえるかを考えた

仕事を通じて、自分が向上する（成長できる）

- 「キャリア教育」と「授業や課外活動」の両方で体験・経験あり n=1705
- 「キャリア教育」でのみ体験・経験あり n=432
- 「授業や課外活動」でのみ体験・経験あり n=831
- 「キャリア教育」と「授業や課外活動」のどちらでも体験・経験なし n=1487



集計対象者：全体 (n=4521)

※グラフにて5%未満はラベルを非表示

キャリア教育プログラムの実態

現在行われているキャリア教育プログラムの効果に着目してみると、今回の調査により、以下の様なことが明らかになりました。

- 単に数多くプログラムを受けるだけでは“しごと観”は培われない
- 積極的な姿勢で取り組むことにより、プログラムの効果が高まる

高校生がキャリア教育プログラムに取り組むにあたって、事前準備や振り返りを行うなど、本人の積極的な姿勢があればその効果は高まるということが改めて明らかになりました。積極的な姿勢で取り組んでもらうにはどんなものが必要か、環境の整備が重要であると言えます。

キャリア教育の今後

職業調べや、職場体験といったキャリア教育プログラムを高校生が受けるときに、彼らはどんなことを考えているでしょうか。

また、キャリア教育プログラムを実施する側は、どんな意図や狙いを持っているでしょうか。

キャリア教育プログラムによって高校生は何を得られればよいのか、どうすれば

「将来の夢や、やりたい仕事がイメージできている」

「仕事は楽しいものだ」

といった“しごと観”の醸成につながるのか、これまではっきりとわかっていませんでした。

今回の調査により、「後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験を得ること」こそが、“しごと観”の醸成につながると明らかになったことで、キャリア教育プログラムを行う目的が明らかになったと言えます。

目的が明らかになったことで、キャリア教育プログラムそのものが変わっていくのではないのでしょうか。

より多くの高校生が「後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験」を得られるようにするためには、既存のプログラムの型にとらわれる必要はありません。各学校に合わせて、プログラムの内容をどんどんアレンジしたり、新しいプログラムを作ったりすることができます。

さらに、「後のキャリア発達に影響を与えるような体験・経験」は、ふだんの授業や課外活動でも得られていることが、今回の調査によって明らかになっています。

つまり、年に数回しか行えないような『特別な機会』だけではなく、「体験・経験」が得られるように意識することで、『日常』のふだんの授業や課外活動でも“しごと観”を醸成することができるということです。